

マイ ジャケット コレクション

株式会社 サン・ジャケット

鈴木 秀夫

レコードとのかかわり

子供の頃から自宅に有った手回し式の蓄音機で、父の集めたレコードを聴くのが楽しみでした。高校は電気通信科でしたので、鉱石ラジオや簡単な真空管アンプ、オープンリールのテープ・レコーダー等を自作で楽しみました。

そんなわけでレコードやオープンリールのソフトとは接していたのですが、後年自分がレコードやミュージック・テープ、その後、CD,VT,DVD等の附属品の製造に関わることになったのは不思議な因縁によるものだと思っております。

我が国には印刷業を営む企業は30,000社程だと思いますが、その内我々みたいに主に音楽に関係している企業はほんの数社を数えるに過ぎないようです。音楽業界の特性である少量且つ多品種の受注の為に大きな印刷会社が手を出さないみたいです。また、工程が分業化されている印刷・加工工程(截、折、抜、綴じ、等)をすべて社内で一貫製造しなくては納期の確保や採算が合わないのが実情です。また少量生産故それが可能なのです。

私が主治医と仰いでいる東大の先生に職業を尋ねられた時も”ああそのようなお仕事もあるんだな”と変な感心をされました。

思うにソフトの内容に比べて縁の下の仕事、目立たない存在だと思っております。幸い、生来の音楽愛好者の一人として現在の自分に満足しております。特に我が社が製造した印刷物の中の歌手さんたちがテレビやラジオなどの放送に出た時は一人のファンとして応援したくなります。また時々訪れるレコード店で我が社の製品を見つけるとついつい手にとって見入ってしまいます。

(株)サン・ジャケットについて

今年で創業40周年を迎えることになりました。業種は主に音楽ソフトの印刷附属品の製造です。当社は役員、社員共で20人足らずの日本では典型的な小企業の一つです。

お得意先としてはキングレコード、学研、図書印刷、フリーボードレコード、ウィングジャパンレコード、アドエイ、高速録音等があります。

それらの各得意先よりCD、DVD、VT、CT等の印刷附属品の注文をいただいて今日に至っております。一応小規模ながら印刷、加工まで一貫生産をしております。現在楽曲の配信の影響で印刷附属品(ジャケット、歌詞カード等)の受注が我々の業界の生産減少を招いているのが実情ですが、我が社では例えばキングレコード様よりの受注は主に演歌、委託品、セット物、民謡、落語、浪曲等なので、今のところは配信による顕著な影響を受けておりません。しかし時代の流れには逆らえないので今後の経過を絶えず見据えながら経営を続けていく所存です。

音楽との出会い

子供の頃、蓄音機で父の集めていた SP 盤で邦楽や洋楽を聴くのが大好きでした。

高校は電気通信科だったので簡単な自作の真空管のステレオ・システムでその頃出回ってきた様々なジャンルの EP 盤や LP 盤を聴いて楽しみました。

ワシントンの日本大使館に赴任していた父から時々 LP 盤を送ってもらって、マリオ・ランザの素晴らしいテナーや、ルロイ・アンダーソンのセミ・クラシックに接し、益々音楽の素晴らしさの虜になってしまいました。

今日に至っても、相変わらずいろんなジャンルのソフトの蒐集に努力しております。統計によると熟年層のソフトの購買率は非常に低いそうですが、私の場合はそれに反してソフト漁りを行っています。

いろんなジャンルの中でもカントリー&ウェスタン音楽を特に好みます。日本では残念ながらマイナーな存在みたいですが、私はそのファンです。

C&W との出会いは、相模原で育ったのですが昔は米軍の基地があり、親友がアルバイトで退役軍人の自動車修理工場に行っていて、時々 EP 盤をもらってきて聴かせてくれたのが殆ど C&W 音楽だったのです。歌詞の意味も分からず聴いていても何か惹かれるものがありました。

高校の英語の先生が「君たちは将来英語とは無縁になるかも知れないが英語の楽しさを味あわせてあげよう」とレコードを聴かせてくれたのがその頃ヒットしていた江利チエミの「テネシー・ワルツ」でした。意味を翻訳してくれました。好い歌だと心に焼きつきました。そんなこんなで C&W の一ファンになってしまいました。

ただ C&W の CD を集めるのに国内盤はなかなか入手出来ないのが残念です。今でも TOWER RECORDS や HMV に足を運んで輸入盤を漁っております。

最近手に入れたハンク・ウィリアムス Jr. の CD で「ビールの中の涙」という曲で父親とデュエットしているのが良かったです。多分亡父の音源に自分の歌唱をダブらせているのですが亡父の音源に少しノイズがあるのが面白かったです。

数年前、もう 80 才以上の C&W の大御所レイ・プライスの日本公演を渋谷で観てからサイン入りの CD を数枚購入して彼と握手した感触は今でも忘れないです。数日後新宿のホテルで彼のサヨナラパーティーにも行き最前列の席で彼のステージを堪能できました。年期の入った素晴らしい歌の数々に聴き惚れた次第です。

これも数年前、シドニーのレコード店にオーストラリアの友人と行き、私の好きなスリム・ダスティの CD の置き場所を若い女店員に尋ねたら分からないとのこと、やむなく広い店内を捜しまわったら数種類の在庫が見つかりました。オーストラリアでも若い世代には C&W 音楽はあまり魅力が無いのかなと思いました。

ちなみにスリム・ダスティは 8 年前 76 才で死ぬまでになんと 100 以上のアルバムをリリースし、シドニー・オリンピックの閉会式でワルチング・マチルダを唄った C&W のヒーローです。

現在のカントリー・ミュージックはロック調の曲が多くなり、私の年代の者にとっては少し馴染めない面もありますが、歌は時代の風潮を反映していると思いますので、そのことを念頭に入れてこれからも一ファンとして数々の曲に接して行きたいと思っています。

マイ コレクションから

() 内数字は製作年



輸入盤 ロック歌手「PRINCE」の CD パッケージ。
万引き防止用？
(1985年)



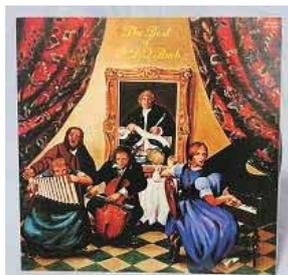
ソ連の LP ジャケット
「ミンクスのバレエ曲 ドン・キホーテ他」
ソ連から帰国した従兄の話だと LP 本体と
ジャケットは別売の場合もあるとのこと。
(1960年頃)



ソノシート「ケネディ大統領演説集」
格調高い名演説で多少勉強になりました。
(1960年)



ステレオ システム・チェック用 LP。
自分のシステムをグレード・アップしたくなりました。
(1978年)



P.D.Q バッハ輸入 LP。
音楽研究社のシッケレ教授がドイツのとある町でバッハ
の未発表楽譜を見つけて LP 化したという冗談作品、
とはいえバロック調の素晴らしい曲目集。
(P.D.Q=Post Demand Quick=Instant の意)
(1979年)



我が社で製造した本邦初の複合レーベル LP。

"20 POWER HITS"

高島屋系列の K-TEL Japan と東芝 EMI が企画・制作、一部地域で TV 宣伝、期間限定委託販売しました。

(注) 当時としてのその販売方法の独自性は 教育社新書 "レコード産業界" にも記載。

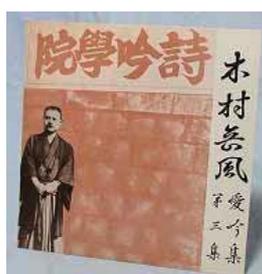
(1972 年)



上と同じく ポリドールレコードが手掛けた

"20 DYNAMIC HITS"

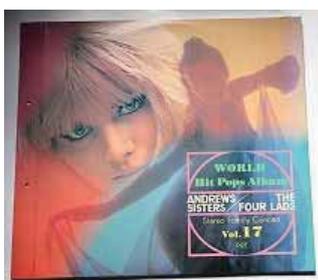
(1972 年)



懐かしい 25cmLP ジャケット。

故あって現在も当社で詩吟界最大の「岳風会」様の CD&CT 印刷附属品を受託しています。

(1975 年)



学研系列の研秀出版が制作・販売した "WORLD Hit Pops Album" シリーズの特異なジャケット。

シリーズ全巻購読者にバインダーを提供し左に見える穴にビス止めするという本邦初の作品。

(1970 年)

以下、サンジャケットの製品群の一部 話題作品も多数



平成 19 年



平成 20 年



平成 20 年



平成 22 年



平成 22 年



平成 22 年



平成 22 年



平成 22 年



平成 23 年

私の鉄道趣味

鉄道ファンにも様々な種類がありますが、私が昔からはまっているのが「運転室展望」です。文字通り運転室から前方をリアル・タイムで撮影したものです。

残念ながら一般人には運転室には入れてもらえないのですが、それ専門の業者が撮影した物が市販されていたり、また通信販売のリストにより買い求めています。以前は

ビデオ・テープを手にいれていましたが、最近では画質の劣化が少ない DVD を愛用しています。市販品が豊富に揃っている書泉グランデやじゅんく堂書店等は私にとってはメッカ的存在です。

市販品以外を求めるために松本の鉄道喫茶「みち」にまで行き、サンプルを観てから買って来たことも数回ありました。そこで同席したひとがたまたま電気機関車の運転手さんで、彼にいろいろな質問を投げかけて鉄道に関する知識を得たこともありました。

長年かけて集めたので、今では日本中の JR, 私鉄、公営鉄道の殆どの路線の作品を集めることが出来ました。リアル・タイムの録画なので地方の単線区間の駅で対向列車を待ち合わせるとき対向列車が遅れた時も辛抱強く待つのですが、別にいらいらもせずに見続けています。それもファンならこそと思っています。地下鉄の場合など真っ暗闇の映像が連続するのですが、それもファンとしては面白いものです。

東京からはなかなか行きにくい地方の路線の場合などはるばる来たという旅行気分を味合えて満足しております。新幹線の場合など線路脇の電柱がめまぐるしく後方に飛んで行くように見えます。まれに列車の直前を人や車が横切ることもあり思わず手に汗が・・・他人からみたら変な、マイナーな趣味と思われるそうですがこれからも続けて新しい映像を集め続けたいと思っています。



平成 23 年



子供の頃からの夢：電車、機関車、自動車の運転手になった気分を味わえる「運転室展望 DVD」。
 一般人は乗務員室に入れないのであればプロの撮影した作品を血眼になり買い求めた結果、全国のJR、私鉄、公営鉄道の殆どが揃いました。他人からは変な趣味と思われるようです。
 (DVDが普及する以前のビデオ・カセットも数百本所蔵しています)

余話

以前オーストラリアの友人夫妻とキャンベラのホテルに泊まった朝テイクフリーの冷蔵庫の中に茶色いペーストを見つけチョコレートだと思いパンに塗って食べたら苦くて酸っぱくて、友人に腐ったチョコレートスプレッドかと尋ねたら、オーストラリア特産の VEGEMITE というものだと言われました。他の食品とは全く違った独特の風味で VEGEMITE の味とクリケットの面白さを知ることがオーストラリアを理解することだと言われました。

後年友人とクリケットの国際試合を丸一日観戦しましたが、そのルール複雑さはせっちな我々日本人には到底理解しがたく、クリケットがアメリカに渡って、より簡単なルールとスピーディにプレイ出来る野球に転化したことが理解出来ました。

日本ではクリケットの試合を観ることはできませんが、VEGEMITE は近年東京でも手に入られるので私も常用しています。余談ですが銀座のクラブで働いているオーストラリアの女の子から聞いたのですが幼年期に風邪を引いたり腹具合の悪い時に母親から VEGEMITE をお湯に溶かして飲まされたそうです。

筆者プロフィール

鈴木 秀夫 (すずき ひでお)

昭和9年生まれ、東京都中野区出身。

県立神奈川工業高校電気通信科、中央大学法学部、成蹊大学政治経済学部で学んだ後、西濃運輸勤務、その後キングレコードのレコード・レーベルを製造していた第十五興生社に転職、その後(株)サン・ジャケットの創立に参加し今日に至る。

現在(株)サン・ジャケット 代表取締役社長。